

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第1分科会 第5回会議
2 開催日時	令和2年7月27日（月曜日） 14時00分～16時10分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館5階 第1会議室
4 出席者又は欠席者名	<p>姫路市総合計画策定審議会委員 第1分科会 委員 12人中 11人（1人欠席）</p> <p>姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 3人</p>
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可（5人） 傍聴人（2人）
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 審議 3. その他 4. 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開会 (14:00)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、定刻となったので始めさせていただきます。本日は、大変お忙しい中、16日の第4回会議に引き続きご出席いただき、誠にありがとうございます。ただいまから姫路市総合計画策定審議会第1分科会第5回会議を開催させていただきます。 ・分科会の開催もいよいよ大詰めとなってきたが、委員の皆様には最後までご審議いただくようよろしくお願いいたします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・欠席委員等確認
分科会会長	<p>2 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、お手元の次第に基づき進める。 ・「当日資料1 第1分科会第4回会議 意見一覧」、「当日資料2 市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること」修正案について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>[説明資料] 当日資料1 第1分科会第4回会議 意見一覧、当日資料2 市民、地域コミュニティ、企業・団体に期待すること</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。前回、「期待すること」という表現を「役割」という表現にすることについて審議したが、ほかの分科会からは特にこの表現について意見はなかったとのことである。この分科会でのご意見を踏まえて修正可能だと思うので、ご確認いただきたい。 ・資料1-1の政策1「信頼ある行財政運営の推進」の関連データについて、副会長からも指摘のあったことになるが、数値の読み解き方というか、ここで何を言いたいのか質問したい。公共施設等の改修・更新費用は、「地域特性に応じた行政サービスの展開」の関連データとして示されているが、このデータから何を示したいのか分からない。市民の多くは、道路、水道、下水道の老朽化がこれから課題になるという認識をしていると思うが、課

	<p>題を前面に出すだけでなく、安心できるような文言を追加すべきではないか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらについては、「人口減少による税収減などの歳入の減少が見込まれる一方で、社会保障費の増大や公共施設の老朽化対策など歳出の増加が見込まれる」の関連データということで整理している。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「※関連データ」の「※」は、文章中の「※」に対応していると思っていた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これは「現状と課題」の丸の3つ目に関連するということである。 ・分野目標の資料では、本文中の記述に※と番号をつけて、関連データと対応させているが、政策の資料では、関連データと本文中の記述は対応させていない。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの行財政運営分野の分野目標と政策1については、見え消し版の資料をお配りさせていただいたが、政策2のスマート自治体の推進については現在修正中なので、また改めてお送りしてご確認いただこうと思っている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにご意見がなければ、審議に入らせていただくがよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民等に期待すること」だが、第1分科会でも例示を頂いた「役割」という形で整理をさせていただきたい。文章についてはもう少し精査するが、「役割」あるいは「～します」という表現でよければ、ほかの分科会とも相談して、修正させていただきたいと考えている。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「期待すること」を「役割」としたので、あたかも私たち市民が言っている体の表現になっている。総合計画ではよくあるが、全部行政が書いて

分科会会長	<p>いるのに、市民がやると言っているように書くのは少し違和感があるが、そこは皆さんのいろいろなご意見がここに反映されて、よりの確なものになることを期待する。今日の審議の中でも特に注力して、ご検討いただけたらと思う。「役割」という表現についてはいかがか。皆さんの思いは反映できただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、次の審議事項に入らせていただく。 <p>3 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料1 市民活動分野 分野目標（案）・政策（案）」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>[説明資料] 資料1 市民活動分野 分野目標（案）・政策（案）</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。それでは、審議に入るが、分野目標、政策1から4の5つに分けて皆さんのご意見をお受けしたい。まずは、市民活動分野の分野目標からいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1の※2、固定的な性別役割分担意識の表のことだが、この読み解き方の説明がないので、性別役割分担意識の現状について欄外で説明したほうがいいのではないか。その場合、例えば全国の中核市との比較のようなものを入れると分かりやすいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・右側の図表は、本文の補足となる資料として載せている。平成23年と平成28年に実施した男女共同参画に関する市民意識調査の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方の是非に関する問いにおいて、「賛成」あるいは「どちらかといえば賛成」という声が減っている。固定的な性別役割分担意識が薄れてきていると読めるので、参考として載せている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・経年比較ではそうかもしれないが、先ほど申し上げたように、全国や他都市との比較で見ると、姫路市の特徴が分かりやすい。「反対」についてみると、男性と女性で変化の仕方が異なる。女性は大きく「反対」が増え

分科会会長	<p>ているが、男性に関してはあまり目立った変化がないように読み取れるので、そのような点について、もう少し丁寧に姫路市の特徴を示したほうがいいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に図表の説明がもう一歩足りていない。横に簡単なコメントをつけるだけでもいいので全部の図表で書いたらどうか。図表と関連する文章が資料左側に確かに出ているが、自分で図表の数字を読まなければ分からない。平易な言葉で分析結果を書くべきである。また、委員の指摘のように、確かに、男性の「反対」はそれほど増えていない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースの関係もあるので、どれだけの資料を載せるかはまた検討させていただきたい。各資料に説明をつけることについても、全ての資料につけると、それはそれで全体として読みにくくなることも考えられるため、「背景」のほうをもう少し詳しく書くような形で対応させていただければと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかによろしいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・関連して、資料1右側の※4に在住外国人の人数の推移が書いてあるが、これも今の意見と同じ印象を持った。姫路市で増えていることは分かるが、例えば近隣の都市と比べて姫路市が多いのか少ないのか把握しにくい。例えば、神戸や岡山と比べてはどうか。急に東京と比べても意味がないと思うので。この地域の中ではどのぐらい姫路は外国人が多いのかというのが分かるグラフだと、スペース的にも少しがあれば載せられると思うので、工夫していただければと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・※2も、23年のデータを出すよりは、他都市のデータを入れるほうが姫路の特徴が分かりやすい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースと併せて検討させていただく。

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次の資料1-1の審議に入る。ここからは皆さんいろいろご意見が具体的にあるかと思うので、しっかり議論していきたい。左側は既に委員の皆さんに見ていただき、ご意見を頂いたものを修正した部分で、右側が新たに出てきた部分である。この「目指す姿を実現するための方向性」と、その下の「役割」については、特に「役割」として「やります」という表現になるため、そのようなところについて皆さんのお知恵を頂けたらと思う。 ・まず資料1-1の「多様なコミュニティ活動の推進」についていかがか。 ・右側のエに「コミュニティ活動環境の充実」とあるが、姫路市の特徴は、南北に非常に広いところである。夢前、安富、それから家島まで姫路市という、地域特性が非常に多様であることが重要な要素と思うので、多世代交流ということだけでなく、地域特性に合った柔軟な活用という言い方のほうが姫路市にあった方針になるのではないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域特性に応じた」という表現を行財政運営分野でも使っているので、そのような言葉を追加するようにする。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を重視していくということが分かるようにしてもらいたい。 ・ウの「コミュニティ活動の活性化」の1個目で、「自治会や地域づくり推進協議会を中心としたコミュニティ活動への支援や、姫路市市民活動・ボランティアサポートセンターの機能充実などにより、地域の特性を活かした、自主的な活動のさらなる活性化を図ります」とある。サポートセンターは姫路駅の近くにあるが、北のことを考えると、やはり地域活動の拠点である公民館などの施設が、例えばサポートセンターと連携してコミュニティ活動を支援するなど、地域づくりに取り組んでいる自治会や地域づくり推進協議会を誰が責任を持って支援するのか方針が見えるほうがよい。全庁的に頑張ると言われるだけでは不安である。 ・今、施策の中では、一番近いのは公民館かなという感じがする。公民館、事務所、支所、サービスセンター、出張所と地域にいろいろあるが、どれがどのように地域づくりや自治会などの地域の組織を応援していくのかがもう少し見えたほうがいい。本庁だけではないだろうという気がする。その辺りはどのように考えているか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今、会長が言われているのは、役所の支所、出張所、事務所などと各地域との関係ということか。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。通常的に伴走していく市側のパートナーはどこかと考えたときに、今は公民館が非常に近くにある感じがする。公民館だけなのか、支所や事務所と公民館が連携するのか、サポートセンターと公民館が何かの形で連携していくのか示されるとよいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路は今言われたように北は夢前から南は家島まで非常に生活圏の広い場所で、それぞれ地域によってすごく特性が違う。歴史もあるし文化も違う。人の性格まで違う。そのような極端な地域である。だから、やはりここでは地区連合自治会が主体になるという方向性を出したほうがいいのではないか。それを中心に公民館活動をしたり、それから小・中学校を中心とした学校教育を支援したりというように、地区連合自治会を中心として活性化していくという方向性を出したほうがよいと思う。 ・ここに自治会と書いておられるが、自治会とは単位自治会なのか、もう一つ大きい地区連合自治会なのか分からない。やはり、72ある地区連合自治会を中心として、それぞれの地域の活性化を推進し、それは公民館を中心とした活動に特化するということにしたほうがすっきりする。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市がこれからいろいろなまちづくりの計画を作っていくのに、パートナーをどこと捉えているのか。自治会だと小さいし、地域づくり推進協議会だと北部は非常に大きいし、何か違う感じがする。地域づくり推進協議会と計画を作っていくのは違う。その間のどこかとやるのかなという感じがする。今の地区連合自治会は小学校区ぐらいの単位であるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。単位としては一番まとまっていると思う。地域づくり推進協議会は72地区を14の地区にまとめており、大きい。だから、地区連合自治会を中心に施策を考えていただいたらいいのかなと思う。

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺りは、これから計画を進めていくのに、市がどことパートナーシップを組むのかなので、自治会や地域づくり推進協議会では少し弱い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりやコミュニティ活動、あるいは地域課題の解決ということについて、市民活動分野の分野目標を読んでもらうと分かるように、市としては自治会を中心とする地域団体がやはり中心としてあって、そこにその他の団体などが協働していくというイメージを持っている。ウのところもそのような意識で書いているが、それが少し弱いというご指摘かと思うので、ここはもう少し色を出すように工夫したいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・極論すれば、それぞれ「小学校区単位の地区連合自治会を中心とした」という言葉でいいのではないか。それならある程度活動範囲が定まってくるから動きやすいし、目標を立てやすいと思う。夢前の目標と家島の目標は全然違う。問題意識も違う。また、市街地の中心部も違う。だから、それぞれの校区がそれぞれの問題・課題を、それぞれが考えていく。それで、行政とタイアップして進めていくという方向づけをここで表したらいいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の言われるとおりでと思う。地区連合自治会を中心とする中で、課題によってはもう少し大きな地域づくり推進協議会などで進めていくほうが効果的なものもあるかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり推進協議会という組織もきちんとある。これはもう一つ上部団体なので、まずは下で一生懸命やっただいて、全体的な話になったら地域づくり推進協議会に上げて議論するという組織体系にすると、すっきりすると思う。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・議会でも質問しているが、「方向性」のエの中で、「公民館や市民センターなど」と書いているが、確かに小学校区ごとに公民館はあるが、市民センターはどこにでもあるわけでないし、「施設の機能の検討・整理」には後ろ向きのイメージがある。姫路の小学校区では、4校区ぐらい、公民

分科会会長	<p>館活動などのコミュニティ活動を推進したくても、利用者が多くて公民館を使えない地域がある。今言われるとおり、北のほうは確かに余っているが、ある地域ではどうしてもコミュニティセンター、あるいは公民館パート2みたいなものが必要になる地域があるので、その辺りの特色が出るような書き方をしていただければよい。ここに「整理」と書いているが、「整理」というのはきちんと整えるという前向きな話ではないので、その辺りについて、少し検討していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いかがか。確かに「整理」というと、統合しそうな感じがする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今、姫路市のほうで既存の公共施設の活用として、市内の3つの校区で公民館の活用の実証実験を、令和元年から令和3年にかけて行っていて、その成果を踏まえて、方向性がもう少し明らかになってくると思う。 ・エのところでは、「機能の検討、整理」ということなので、そのような公共施設の機能をもう少し柔軟に使えるような形で整理してはどうかというニュアンスでの記述であり、施設整理ということを出しているものではないことはご理解いただきたい。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・そうすれば、今言われるとおり、エのところは「コミュニティ活動機能の充実」でいいのではないか。環境というと箱物のように聞こえる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある既存の施設を活用する中で、機能をもう少し柔軟に持たせるようにという方向性を示した内容である。
参与	<ul style="list-style-type: none"> ・議会でも何年も話をしている、コミュニティセンター等は全く増やす気はないようなので、今、委員が言ったように、地域性に合わせて対応する必要がある。実際箱物は必要などころには要と思うが、必要でないところは要らないと思うので、その辺りは臨機応変な対応をしていただきたい。コミュニティ活動をしたくても公民館が手狭だからできないという地域がある。議会でも長く言っているが、なかなか前向きな話がない。この間も質問させてもらったが、地域によって全然違って来るので、できるだけ前

分科会会長	<p>向きな検討をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかにどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・地区連合自治会を中心とした地域課題の解決ということで1点確認になるが、自治会以外にもNPO団体やボランティア団体などが地域課題の解決に活躍されているところもある。その点については、パートナーシップは自治会を中心として、それぞれ足りないところをNPOなどが担っていくというイメージで文章を書いているが、それはその方向でよろしいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、地区連合自治会の傘下の中にスポーツクラブ21の団体もあるし、消防も防犯もあるし、いろいろな団体とコラボしている。だから、地区連合自治会のトップの三役がきちんと腹を決めて推進すれば、その地域は動く。播州の秋祭りではないが、総代さんの号令一発であれだけのことができる。そのような関係もやはり地域のまとまりで動くのだというのを強調したほうがいいのかと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市の特徴は、自治会が強いということと、これだけの都市なので非常に豊かな人材も揃い、その辺りがうまく協働し補完し合える状態にあることである。だから、地域計画というと自治会中心になるが、自治会の側も柔軟な連携が求められるというニュアンスだと思う。 ・ほかにはよろしいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・時間も押していると思うので1点だけ。資料1-1の左側の「現状と課題」だが、1番目に委員が言われた単位自治会としての地域団体ということが述べられているので、次に複数の地区の連合自治会を構成する重要な地域づくり推進協議会について、段階を踏まえて話を進めていったほうがいいのかと思う。担い手不足の話が2番目に来るよりは、むしろ4番目の終わりぐらいに、公民館、市民センターの利用方法など活動しやすい環境づくりが必要になっている一方で、ライフスタイルの多様化などによって担い手が少なくなっていると書くのがいいのではないか。一方でNPOやボランテ

事務局	<p>ニア団体も出てきて、市民活動もあると書いたほうが読みやすいと思うので、順番を入れ替えたかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に2つ目の丸の内容の位置を変えるということか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討したい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしいか。それでは、政策2に移らせていただく。人権尊重社会の形成、資料1-2についてご意見があればお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画策定審議会会長から人権分野について意見が寄せられているので、読み上げさせていただく。 ・乳幼児を含む児童虐待の防止、そのための市民ネットワーク、みんなで子育てをするような市民ネットワークづくり、地域で虐待防止に取り組み、地域で子育てをするような項目が含まれているのか。特に虐待防止については深刻な人権問題であり、一人でも多く防ぐことができれば、ネグレクトされている人も徐々に変えていくことができるので、プラスの部分が大きいのではないか、という意見を頂戴している。 ・審議会会長のご指摘については、目指す姿を実現する方向性のアもしくはエのところ、もちろん虐待については児童も含めた書きぶりになっているし、姫路市のほうでも虐待防止の協議会を作って対応させていただいている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一つは、文章の書き方で気になったところがある。「現状と課題」の1番目の丸のところで、「性的マイノリティに対して理解を示さない人や偏見を持っている人は依然として多く」と書かれているが、こういう書き方より、もう少し一般的な書き方として、「性的マイノリティに対する理解の不足や偏見、差別は依然として根強く」というようにするのがよいのではないか。「人が多い」と言い切っているのかどうかと思う。社会全体の

	<p>認識としてそのようなものが根強いという書き方にしたほうが良いというのが一つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一つは役割のところ、「男性らしさ」「女性らしさ」という価値観に捉われない考え方を心がけましょう」とある。10年前の計画ならこれでいいかもしれないが、今これを心がけるとしても、いつの時代なのかという感じがするので、例えばそこを生かしたいのであれば、「捉われない考え方を進める」か「深める」ではないかと思う。そして、性の多様性への理解も深める、といったことを含める。今は男性、女性だけではないということをしちんとここに掲げたほうが良いと思うので、その文章を工夫していただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討させていただく。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・では、次に進めてもいいか。政策3、「市民文化活動の推進」、資料1-3についてご意見があればいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも気になるが、姫路市はお城と圓教寺の存在が大き過ぎて、観光という面からいくと国際的に非常にPRが下手なのかなと思う。それに乗っかっていたら外国からどんどんお客さんが来るということが前提になっている。「目指す姿を実現するための方向性」についても、施設の活性化、活用というのは1行もないと思う。いろいろな考え方があると思うが、これから文化コンベンションセンターの完成も含めて、文化的な施設の有効活用をどのように進めていくのかということも視野に入れながら将来の方向を検討していただきたいと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す方向性の「土台」のところ施設が挙げられていて、「姫路市文化コンベンションセンターなどの文化施設等のさらなる活用を進めます」とある。どのようにというところは、また次の計画かもしれないが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまのご意見は、姫路城や圓教寺といった建築物を例に出された関係もあると思うが、文化財の保存、継承と活用という観点かと思う。保存

委員	<p>については、文化財ということになると教育分野で一つ政策を設けていて、そちらで地域にある文化財も含めて、大事に保存、継承していくということと、あとは観光分野で観光資源として活用していくということを整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右側の「目指す姿を実現するための方向性」のところで、アに「次世代の文化芸術を担う人材の育成」を挙げている。やはり未来のビジョンを描くというのはとても大事なことで、これが真っ先に出てきたのはいいことだと思うが、その中で次世代、私たちが未来を託す子どもたちに何をバトンタッチしたいかというのが少し違うのかなと思う。 ・文化芸術への関心が高い子どもであればいいのかというと、そうではないと思う。いろいろな知識や教養を知っているだけではなく、やはり素直に感動して、素晴らしいものを見たときに喜ぶとか、豊かな感性を持った子どもになってほしい。それをここに入れた方がいいのではないか。「鑑賞や発表の機会を提供すること」まではいいが、次世代の子どもたちが、感動のできる子ども、豊かな感性を育むというような、一見ありきたりだが、基本的な文言を入れて、次の世代の子どもたちがどんな子でいてほしいか、ここではっきり見せてほしいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・言われるとおり、ここでは、芸術に触れる方を育成していく、子どもに焦点を当てて、演劇や音楽など、そのようなものを実際する人を育てていこうという書きぶりで、それを楽しむという視点は入っていないと思う。それはここに追加したいと思うが、総合計画の中で全体として全然入っていないのではなくて、今言ったような感性を持った子どもを育てるとするのは、教育分野のほうでは少し入っているが、ここでも少し入れた方がいいと思うので、検討させていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひお願いする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・多分、文化とは何を指すかという定義がかなり曖昧になっていると思う。この第1分科会における文化というのは、今言っている芸術なり音楽なり

事務局	<p>歴史の文化を指すのか、あるいは文化というのは非常に広いので、例えばスポーツや情操教育のための公園の整備とか、そのようなことは別の分野であると思うが、ここの第1分科会で話し合うべき文化というのはどこまでを指すのか教えていただきたい。あるいは、ここで明確にする必要があるのかというのを伺いたいと思う。</p> <p>・以前、この分科会で同じ質問があったと思うが、ここで言う文化とは、文化芸術基本法に定められている文化を対象としている。芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、生活文化、文化財、大きいカテゴリーではそういうことになる。総合計画の基本構想でそこまできっちり書き込むのはどうかと思うので、そのような認識で取組の方向性を検討していただけたらと思う。</p>
分科会会長	<p>・よろしいか。ほかにはないか。</p>
委員	<p>・「社会包摂」という言葉が出てくるが、具体的な理念が見えないので、これはぜひ用語集のほうで、もう少し具体的に説明していただいたほうがいい。</p> <p>・「市民文化活動の推進」については、今、コロナの中で文化芸術をどう守っていくかが非常に課題になっていると思うので、その辺り「現状と課題」のところにはやはり何か欲しいなと思う。</p>
事務局	<p>・コロナの関連の記述が必要ということか。</p>
委員	<p>・今、文化芸術活動が危機に瀕しているという表現でいいかと思うが、それを支えていくには、オンラインによる配信みたいなこともメジャーになっていくことがあるので、その辺りを踏まえ、やはり新しい発信の仕方としてそのようなことを扱うのがいいのではないかと思う。多分創作の仕方でも変わっていくと思う。その辺りも踏まえて、一言「現状と課題」に入ると同時に、方向性の中でもそのようなことで新しいものを入れるのがいいのではないか。</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・言われるとおり、今はホールで音楽の演奏などがなかなかできない状況にある。だから、私どももこれからは動画配信にも力を入れていきたいと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・では、そのような文言を「現状と課題」の部分、「方向性」の部分に書いてください。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ関連ということで付け加えさせていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今、ホールでの音楽活動についてのご回答があったが、丸の2つ目に姫路市には全国的に誇るべき秋祭りがある。今、委員から文化活動が危機に瀕しているとあったが、コロナの中で、人が大勢出て密にならないとできない祭りは、実施できない状況にある。だから天神祭、祇園祭、全部ことごとく中止になった。それで文化を継承できるのかという、これについて全然触れずに10年間いくというのはおかしい。その危機と対応、何に取り組もうとしているかという、それが入っていないと今新しく作る意味がないと思う。ホールで行われる事業も大事だが、姫路には祭りはなくてはならないものだから、何が何でも守るために頑張っていくというような表現が欲しい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先日の違う分科会で、今議論している芸術や文化と同様、学校教育に関して実地が一番大事なので、今後は現場の部分とオンラインの部分の使い分けみたいなものを考えていかなければならないと言われた。この分野においてもそれと同じことが言えると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・集まって、騒いで、みんなで祝うことができない。それが否定されると祭りにならないので、大変難しい。天神祭などでは神事は神事として、いつもは公開されなかったものを、今回リモートで公開するという工夫をされている。船渡御は人が集まるので中止となった。そのような苦渋の中で選んでされている。播州秋祭りは、神事と祝いの場をどう分けて伝承して

分科会会長	<p>いくかという、そこが知恵の出どころではないだろうか。</p> <p>・祭りに関しても、コロナ対策というか、コロナを受けた現状での方向性についてあるといいか。</p>
事務局	<p>・コロナについてはほかの分科会でもお答えしているが、これがどこまで続いて、どれだけ影響があって、これからも続くのか、正直見えないところがある。この総合計画は10年の計画なので、その中でどこまで書き込むか、非常に難しい。そのため、今年度中の策定ということを前回の会議のときに申し上げたが、やはり現状を踏まえた対応というところまでしか書けない。</p> <p>・今、審議していただいている基本構想を進める上で、さらに具体の事業を定める実施計画がある。この実施計画は毎年その事業を改定し、3年に一度その評価をするという流れで進めていこうとしている。その実施計画の中では、今委員の言われた具体策、そのときに応じてどんなことをしたらいいか反映させていけると思うので、主にはそちらで対応することになるかと思う。</p>
委員	<p>・ただ、今はコロナだけが話題になっているが、いろいろな災害も考えられる。祇園祭の長い歴史だと戦争とか禁門の変で文化財そのものが燃え、それが何年かぶりに復活したみたいなことがあるが、その復活するパワーの種は蒔いておかないといけないと思う。いかなる危機の場合にもこれまで継承された文化が失われることなく伝承されていくよう、みんなの英知を集めなければならないみたいな、そのような心意気が見えればいいのかと思う。</p>
分科会会長	<p>・別に具体的内容でなくても、心意気である。基本構想とはそのようなものだろう。</p>
事務局	<p>・方向性であるので、そういった大きな形での書きぶりはできるかと思う。</p>

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ取り組んでいただきたいと思う。ほかはいかがか。よろしいか。 ・それでは、最後の政策になるが、政策4「国際交流・多文化共生の推進」、資料1－4についてご意見を願います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路市に在住外国人が増加しているという、先ほどのグラフでも出てきたが、「現状と課題」の丸の3つ目のところについて。その在住外国人の方たちにどうコミュニケーションを取っていくか考えてみると、以前自治会長から、なかなかごみ出しのルールを守れないということを聞いたことがある。今はとても耳触りのいいことが書いてあるが、やはり日本というか姫路で暮らしていただくためには、姫路のことを好きになってもらって、姫路を第二のふるさとして誇っていただくという、そのような広大なものも見ておきたい。 ・この方たちの便宜を図るのはもちろんだが、姫路から見た場合に、ただ安心して生活するだけでなく、「地域に溶け込み」とか、あるいは「融和し」といった、そのような交流、コミュニケーションをどう持っていくかという視点が必要である。今はただのきれい事で終わっているような気がする。ただの腰掛けで来ていただくのならこれでいいが、やはり私は日本文化や姫路の良さを分かって、永住する方になっていただきたいと思うので、そういったことを、少し入れていただけたらと思う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・いかがか。「方向性」でいうと、エのところは今言っていた方針が書かれることがいいのだろうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・エのところになるか、イの「地域コミュニティ活動への参画」の中でそういった意識を醸成させていく流れにするか、どちらかだと思うが、非常に良いご意見が出ているので、参考にして書かせていただきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人も、永住される外国人と、臨時で期間工みたいな形で就業される方と2種類に分かれる。永住される技術スタッフや、きちんとした正業に就いておられる方はそれなりにきっちりした生活をされている。一番困るのは期間工みたいな形で、冬だけ、または夏だけ就業するとか、3～4か

	<p>月で入れ替わる方で、自治会でも苦情ばかり受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外国人に対応する翻訳機を買ってくれ」と市に言ったこともある。外国人と話をするときにはそれでやりとりしないと、都合が悪くなると向こうの言葉で話され、こちらは理解できない。こちらが日本語で言うと向こうは分からない。そのすれ違いが非常に大きい。そのようなコミュニケーションが取れるような機械が2～3万円であるから、買って自治会長に預けてくれと2～3年前に要望した。 ・外国人の問題は一定の地域に集まっている。ホテルがあるので、その辺りの差もある。困った外国人がいる自治会長は今でも困っている。そのことが全市にわたっていないから全市的な問題にはなっていない。このような内情をどのように表すのか、難しい話である。 ・そのかわり、地域の行事にも参加し、自治会の役員さんになっている外国人もいて、そのような方はきちり話ができる。また、日本語がある程度理解できて永住するような人、子どもも学校へ通っているという人はしっかりしている。差がすごく大きい。期間工で3か月、5か月預かって、また次の新しいところへ移っていく、そのようなパターンが困る。その辺りまで総合計画で表すのは、少数意見になるから難しいだろうが。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今のことに関連するが、外国人の方の毎日のごみ出しの問題や騒音の問題は、本当に日々、中心部では発生している。そのような日々発生している問題を、姫路市国際交流センターか、どこか行政の機関で集約される構造になっているのか、まだそこまでいっていないのか。毎日発生することをばらばらに集計されているだけなのか、行政としてそれを姫路市全体で集計する構造になっているのか、教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の対応になっていると思う。委員の言われたごみ出しのことや、期間工のそのような問題は、国際交流センターの方に苦情が入ることはあまりないと思う。 ・相談窓口としては今、外国人相談支援センターというのが本庁の1階にあって、そこで一括して受ける形になっているが、地域の個々の苦情であったり問題であったりということは、内容に応じてそれぞれの部署に情報

委員	<p>が入っていると思う。</p> <p>・私も多少関係しているが、外国人は、中国やベトナムの方が姫路に多い。しかし、もっと少数派の外国人の方もおられるので、その方の情報とか。それからごみ出しの資料でも、中国語、ベトナム語、あと3～4か国語のチラシはあったが、本当に少数派向けのものはあるのかないのか知らない。意見として集約されていかないと進展がないという感じがする。</p>
事務局	<p>・そのような事例を一つのところで集約して、その対応を考えていく必要があるというご意見だと思う。今後取り組んでいくことの一つだと思う。</p>
委員	<p>・外国人の方は、就労あるいは就学を目的に来られている。短期の方は特に何か目的を持って、その期間だけ来られていると思うが、そういった場合は、学校とか企業の方々の役割も大きい。特に外国の方は文化が全く違うので、ごみ出しを決められた日に決められた場所に持っていかないといけないという、日本人であれば当たり前と思うことも、実は当たり前ではない。そのような情報をどこで得るのか。得たらきちんとできるが、得ることさえできない方が多分おられると思う。</p> <p>・そこをどうフォローしていくかというところ、企業や学校など、所属しているところでの教育が大きいと感じるので、例えばここに期待することを書いてあるが、職場環境を整えるだけでなく、プライベートのところも含めてフォローする体制が必要と感じる。</p>
分科会会長	<p>・ほかにはいかがか</p>
委員	<p>・エの「在住外国人への生活支援の充実」のところで、「日本語や日本文化を学ぶことができる体制の充実」とある。兵庫県では夜間中学をやっていて、今のところ尼崎と神戸にしかないの、県西北部をどうするか、姫路市に何とかというところまで来ている。さきほどの発言と関連するが、ここでなぜ日本の税金を使って外国の方に無償でテキストを配り日本語を学んでいただくか。日本人は人がいいから、そこで終わっているが、やは</p>

	<p>りそのことによって日本を理解していただき、日本に融和していただき、日本を第二のふるさとと思うようになっていただきたいという、心の奥にはそれがあると思う。ただ、「どうぞ、どうぞ」と言うから何となく単なるサービスで流れてしまう。くどいようだが、文言を付け加えていただければ、 「日本文化に融和し」、本市を「第二の故郷」として愛着を持ってもらえるような地域理解ということであればカバーできるかなという気がする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのようなことを抜きで、ただただ、日本語や日本文化を学んでいただく、特に夜間中学は、昔のように仕事のために学校に行けなかったという人はほとんどいなくて、大多数が外国人である。でも、その人たちに「歌もありますよ」「こんなことも学べますよ」と書いてあるが、やはり施しだけでは駄目だと思う。こっちも実りを取らないと、ウィンウィンでないとそのような事業は絶対成功しないと思うので、こちらの願望をぜひ上手に入れていただきたい。あまりそればかり出して、こっち側のウィンだけになってしまうと、それもサービスではなくなるので、慎重に文言を入れていただければこれは解決できるかなと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の議論をお聞きしていて、「現状と課題」のところ、書き方をもう少ししっかり書いたほうがいいのではないかなと思うのは、2つ目の丸のところ「在住外国人が増加しており」とあるが、これは多分企業が海外から連れてくる採用を増やしている。そのために増えているので、地域とか市とかの役割もそうだが、企業の果たす責任、役割が非常に大きいと思うので、ここにどういう背景で外国人が増えていて、それに対する企業の責任を書いた方がいいのではないかな。今、コロナで在日外国人労働者が大変つらい目に遭っているということも言われているが、その辺りを考えて、もう少しきちんと企業との関わりみたいなことを入れたほうがいいのではないかな。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「現状と課題」の2つ目の増加の要因と、それから企業、団体の役割のところにも、その背景に基づいた役割をまず、先ほどの委員のお話も含めて挿入するという感じであるが、どうか。そのような方向でよろしいかな。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような方向で検討させていただきたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会としては今日が最後で、今日の分科会全体を通じて何かご意見があれば、それもいただきたい。これで分科会が終わって、次は全体会で基本構想は終了である。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の議論あるいは前回の議論を踏まえて改めて思ったのは、地域によって差があるということが前提で、別にそれ自体は悪いことでは全然なくて、当然地域によって課題が違って、重みづけも違って、プレイヤーも違うわけである。あるいはまとまりというか、全て同じ地域なんてあるわけではない。 ・行政が公平、効率あるいは平等というのが大前提という古い考え方をすれば、純粋に考えればなかなかタッチしづらい。しかし、そうも言っては行かないという場合、地域に寄り添った地域ごとでの対応の可能性みたいなことは、第1分科会で書くようなことなのか。それとももっと上位のところ、これからの姫路の総合計画を考える上で、地域ごとに対応をきめ細かくするとか、えこひいきとは言わないにしても、若干今までの行政あるいは市政のやり方を変えてでも取り組んでいくとかいうことまで考えられるものか。 ・現実問題そうなっているわけである。地域としても、あるいは施策としても。そのようなことは改めて、これは新しい姫路市の総合計画としては言えるものか。キーワードには、やはり、対等というものが一つある。対等ということと、あと委員が言われたように、姫路の持っているDNAと云えばいいのか、良さを継承していくということと、さらに地域ごとの課題をどのように解決していくかということが結構大きいかなと思っていて、その意味でこの総合計画として、姫路市の考え方をどの段階でどのように示していくのかというのが若干気になっている。 ・頂いた資料の中で、人とか地域とか4つの円があった。それを見る限り、そのようなことと何か違うように感じたが、これは一体どのように理解すればいいのだろうかというのが質問である。何となく伝わっただろうか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを進めていくための計画がこの総合計画ということになる。そのまちづくりに必要な大事な要素として、行動指針の「人」「地域」「活力」「土台」の4つの要素を捉えている。それをそれぞれつくり上げていけば、それがまちづくりにつながっていくという、そのような方向性をこの総合計画では整理している。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を最大限に生かすと、それは分かった。それで「人」「地域」「活力」「土台」と、それはもちろん重要だと思っているが、行動指針にはもう一言あるのではないかと思う。 ・この行動指針は、もちろんここで議論する場ではないかもしれないが、地域によって課題が違ったときの対策の考え方とか、あるいは委員が言われた何を継承するのかとか、継承することの意義とか、あるいはウィンウィンかもしれないが、行動指針では重要かなと思っている。もちろん今は各論しか議論していないので、ここで話すものではないかもしれないが、それはどのような場で話すことなのだろうかというのが質問である。あるいは、これは既に決まっていて、ここの中で我々は考えないといけないのか、いかがだろうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと総合計画の目指す都市像として、「ともに生きともに輝くにぎわい交流拠点都市姫路」というフレーズがある。その下に、このフレーズに含めている思いとして、「世界文化遺産・姫路城をはじめ、豊かな歴史文化や産業、自然環境に恵まれたふるさと姫路を舞台に、多様な人が、互いの命・暮らしをたいせつに想い、支え合って、力強く輝く。そして、播磨の交流拠点都市としての特長を活かし、まちとまちの連携、ヒト、モノ、情報の活発な交流を通じて、世界に誇れるまちの魅力やにぎわいを創出する、持続可能で生涯安心して暮らすことのできる都市を目指す」というのを都市像として掲げており、これが中間報告で出ている。 ・これを目指すために今審議していただいております、どのような目標を持っていこうか、どのような姿を目指していこうか、そのためにはどのような方向で進めていこうかということをお話し合っているわけである。

<p>分科会会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その中で、今言われた地域課題の解決といったテーマであれば、それはこの第1分科会の、前回の分科会で議論した行財政運営分野のところに入ってくるようになるし、また、まちの魅力であれば都市基盤分野などになってくると思う。それはそれぞれのテーマごとに審議していただくという進め方になる。 ・全体会で行動指針を審議してみて、行動指針ももう一度何か提言するというのもあるかもしれない。少し仰々しいが。 ・さて、分科会はこれで終わりだが、今回の総合計画は、前回の総合計画の策定に私は関わっていないが、随分分科会を細かく分けて、議論の道筋も工夫されて、皆さんからいろいろな議論をもらいたいという思いで進めておられるのはよく分かったが、いかがだったか。もし何かあったらご意見を頂きたい。意見が言いにくかった、でき過ぎていた、非の打ちどころのない、漠然としていたなど。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり播州は地域の個性が強い。それで全市的に大きな網をばさっと掛けようとする、こっちが飛び出し、あっちが飛び出すような感じがする。だからやはり地域を分けて、北部、中部、南部とかいう感じで、ある程度、地域の共通点を網掛けするような方法で平均を出して、1回考えてみたらいいのかなと思う。全体的に網を掛けようとする、山のほうに掛けたら浜手が十分でない。浜手の方に手を掛けたら山の方が十分でないというような感じの結論になる。 ・その辺り、非常に文章的にも難しいと思うが、それぞれ個性の強い連合自治会長さんのような人を相手に行政は動いていかなければいけないのだから、やはりそれぞれ、ほどほどに折り合いを付けて納得でき、「行政が言うのなら仕方がないな」となるような結論を導き出せる内容を考えないといけない。あっちではじけた、こっちではじけたというような感じのものを作ってしまうと、結局絵に描いた餅になってしまって、にっちもさっちもいかない感じがする。個性が強い会長さんを「うん」と言わせるような資料にしてもらいたい。よろしく願います。

分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは地域ごとに計画を考えていく、そのような時代だから公民館とのモデル事業をやるというようなことも市も考えておられる。市全体で共通のものにするのはなかなか難しい。全体のは市役所に任せて作っていただいて、例えば地域別の計画に注力していくというのも一つの方法である。 ・だから、地域づくり推進協議会か、あるいはもう一つ下の地区連合自治会ぐらいのところで計画を作っていくということも、次の総合計画の流れというか、方向性の一つである。もっと市民レベルで夢を語り合うような、基本構想のそのまた上の、子どもや孫の世代には「こんな姫路になってほしい」というような夢を語る会があってもいいのかもしれない。その辺りの、市としてぜひ皆さんにいろいろな意見を頂きたいという、そのような姿勢は最初この依頼を受けたときから非常に感じていて、でも、なかなか難しい。行政マンはプロで、裏にもっとすごいプロがいたりするので、非常にできた資料になっているから、なかなかそれを変えていくというのは難しいが。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの、委員の北と南の文化の差、地域の差、それぞれに違いがあるという話だが、一方、他の委員は祭りのことを言われた。播州において祭りの感情は北も南も一緒だと思うが、祭りの感情も地域によって違うのだろうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りは統一していると思う。屋台の格好が少し違ったり、担ぎ方の掛け声が違ったり、太鼓の節が違ったり、そのような違いはあるが、大体、甲山にしても大塩、的形、松原、魚吹、それからこの近郊の祭りは、やはり総代会というのがとりまとめている。自治会が姫路市内で90%の加入率を誇っているのは、そこがもとになっているからで、祭りのそれぞれの地域の総代会がもとになって自治会が組織されているという感じである。だから祭りの取組の姿勢自体も、考え方も変わらない。 ・しかし、例えば学校統廃合は今年ぐらいからかかるが、これは初め3～4回の審議会を進めようとしたが、結局審議会には11回出席した。田舎の学校は都会と全然違う。浜手、家島、坊勢は全然違う。それぞれ違うのだから

	<p>らまとまるはずがない。それを、どこかで折り合いをつけながら、取りあえずこの方向で行こうかと、ある程度オーソライズされて基本構想がまとまるまで審議会が11回必要だった。やはり地域の特性というのは、歴史、風土、各地域の人の気質、それが全部違うから。それを十把一からげでばさっと上げてしまったら、こっちが突き出し、こっちが突き出しする。だから、祭りの組織を頭に入れて計画しなければならない。</p>
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それは本当に大きいと思う。祭りからまちづくりということ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りで行くと宗教の問題と絡んでくるが、播州の底流に流れるDNAみたいなものがある、そこでひたひたとまとまっていける可能性がある。あまり前面には出ない。というのが結構、日本の中でも特色が出てくる可能性があるなという感じはする。 ・第二のふるさとになってほしいというコメントは非常に熱いコメントだと思う。短期で来られた外国の方でも、祭りを通して愛着を持てるようなやり方になるといい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人でも祭りの好きな人はたくさんいる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な問題だ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり地域によってやり方も全然違うし、考え方も違う。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の総計は「祭り」というキーワードから入っていくのがいいか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りの総代会を市が牛耳ったらいい。総代会を号令一発で動かしたら、いろいろできる。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に面白いかもしれない。外国の方にもそのことを理解していただいたら、1つのいい目標設定のような気がする。 ・少し脱線したが、皆さんに感想を書いていただいたりするプロセスはあ

事務局	<p>るだろうか。このまま終わるより、一度ご参加された感想をいただき、また次の計画を作っていく参考にするといいいのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何か言おうと思って来たのに、言えなかったとっていないか心配なので、感想を書いていただけるようなプロセスを、全体会をめぐると話かもしれないが、ぜひ作っていただきたい。 ・それでは、議論はこれで終了して、事務局から願います。 <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は長時間にわたりご審議を頂きありがとうございます。グラフの使い方だとか見せ方、一般の方への発表の仕方については、今回は文字ばかりの資料で非常に心苦しいところがあるが、総合計画と併せてパンフレットの作成を考えているので、できるだけ分かりやすい形で伝えていきたいと考えている。 ・先ほど会長からのお話にあったが、序論部分を含めて第1分科会の所掌である市民活動分野、また前回の行財政運営分野について、この後もし意見等があれば、作業の都合上今週中に頂けたらと思っている。会長が言われた感想とはまた別として頂きたい。 ・本日頂いたご意見と、追加で頂いたご意見を踏まえ、後日、その対応について分科会長ともご相談させていただきながら、事務局としての対応を報告書で明記させていただこうと思っている。 ・今後の予定だが、まず第1分科会としての構想案をまとめて、その後、8月21日に審議会会長と各分科会の会長、副会長で構成する正副会長会議がある。そこでそれぞれの分科会での審議状況を報告していただいて、1つの冊子として取りまとめるような形で同意を得たいと思っている。 ・皆様には、8月31日午後2時からホテル日航姫路光琳の間で開催する第3回全体会議に参加頂きたい。皆様にはその場で審議会としての最終案をご確認いただいた後、これでいいということであれば、審議会会長から市長に答申を頂こうと思っている。よろしく願います。 <p>5 閉会 (16:10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、以上で第1分科会第5回会議を終了させていただく。今申し
事務局	

	<p>上げたように、8月に全体会議がもう一度あるが、第1分科会で集っていただく機会としては本日が最後になる。会長初め委員の皆様には長きにわたって本当に貴重なご意見いただき、事務局としても非常に感謝している。</p> <ul style="list-style-type: none">・今後においても姫路市政への変わらぬご支援、ご協力をよろしく願いしてお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。
--	---